点訳フォーラムＱ＆Ａ

2021年４月～2022年３月版

第３章　分かち書き

その１　自立語と付属語

１　基本的な分かち書き

１．p51　１．自立語

語例集の、「朝食べない派」を「アサ■タベナイ■ハ」と書く理由の説明ができません。「派」は続ける成分の名詞と考えました。「食べない派」は「タベナイハ」、「食べる派」は「タベルハ」と書くと思います。その前に「朝」が付くので、区切って書くのかとも考えました。複合名詞ではないと思いますし、そこをうまく説明できません。「食べたくない派」は、どうなりますか？

【Ａ】

「派」は１拍ですが、名詞ですので、自立性が強い場合は区切って書きます。「仲間」を表して、「新しい派を立てる」とか、「主義」を表して「朝食は絶対取る派」などという場合は、１拍でも自立した意味のまとまりとなり、独立した名詞として用いることができます。

「朝食べる人」という場合に、「人」を含む複合名詞として、ヒトが２拍なので続ける成分だと考えるのではなく、文節分かち書きに従って「アサ■タベル■ヒト」とマスあけします。これと同様に、「朝食べる派」「食べたくない派」などは、「派」を修飾する連体修飾語の部分を文節分かち書きの考え方によって、「アサ■タベル■ハ」「タベタク■ナイ■ハ」のように区切って書きます。

ただ、「感覚派」「改革派」「慎重派」「印象派」など、前の語に接尾語的に付いている場合は、前の語と一続きに書くことになります。

２　注意すべき分かち書き

１．p57　４．「ない」

「申し訳なさ」「気持ちよさ」のマスあけについて教えてください。

ますます申し訳なさが募ってしまい・・・

父親に背負われたことがある。その気持ちよさと言ったら、なかった。

というふうに書かれています。切ればよいのか、続くのか分かりません。

【Ａ】

「モーシワケ■ナサ、キモチ■ヨサ」となります。

「なさ」「よさ」は、「ない」「よい」の名詞形ですので、もともと複合形容詞として続けて書く語が名詞に変化した場合は、続けて書きますが、そうでない場合は、「なさ」「よさ」を原則として区切って書きます。

覚束ない　オボツカナイ　⇒　オボツカナサ
さり気ない　サリゲナイ　⇒　サリゲナサ
頼りない　タヨリナイ　⇒　タヨリナサ
いたたまれない　イタタマレナイ　⇒　イタタマレナサ
申し訳ない　モーシワケ■ナイ　⇒　モーシワケ■ナサ
意気地無い　イクジ■ナイ　⇒　イクジ■ナサ
心地よい　ココチヨイ　⇒　ココチヨサ
ほどよい　ホドヨイ　⇒　ホドヨサ
小気味よい　コキミ■ヨイ　⇒　コキミ■ヨサ
形よい　　カタチ■ヨイ　⇒　カタチ■ヨサ

「よい」が続く場合は「いい」の発音になることが多いので、「よさ」で続く例はあまり見当たりません。

上記の例は、「よさ」以外は、点訳フォーラムの「点字表記の語例」に掲載されていますので、参考にしてください。

２．p60　６．「こ・そ・あ・ど」など　【備考】

「あのまま」は区切って書きますか。「そのまま」、「このまま」は一語として一続きに書くようですが、どう違うのでしょうか。

【A】

点字表記の語例にもありますように「あのまま」は「アノ■ママ」と区切って書きます。

「この」「その」「あの」「どの」は連体詞ですので、後ろの語との間を区切って書くことが原則ですが、後ろに続く語との組み合わせによって、一語としての意味のまとまりが強いと判断すれば続けて書くことになります。

たとえば、「そのまま」「このまま」は、多くの辞書で一語として扱っていますが、「あのまま」「どのまま」は、一語として扱っている辞書は見当たりません。ですから一語として熟しているとは言えないと判断し、原則通り区切って書きます。

また、「このたびは」とか「･･･そのもの」の「この・その」も後ろの語と続けて書きます。このように、「この・その」は比較的、後ろの語と続いて用いられることが多いのですが、「あの・どの」は、少しニュアンスが異なり、指し示す対象物と離れた感じがしますので、原則通りに区切って書くことが多くなります。

語例を考えても、「その後（ご）、この後（ご）」とは言いますが、「あの後（ご）、どの後（ご）」とは言いませんし、「そのうえ、このうえ」（副詞・接続詞）とは言

いますが、同じような表現で「あのうえ、どのうえ」とは言わないなどの違いがあります。

したがって、「この」「その」「あの」「どの」がすべて同じ扱いとはなりません。このように、原則を押さえたうえで、辞書を参考にしながら１語かどうかの判断をすることになります。

３．p62　「コラム16」

「んもう。だからいったじゃない」という場合の「んもう」は続けるのでしょうか。

【A】

この「ん」は、女性語の「まあ」「もう」などを強めた形ですので、一語と考えて、「ンモー」と書いてよいと思います。

その２　複合語

１　短い複合語・接頭語・接尾語など

１．ｐ63　１．短い複合語・略語

「アオイ■トリ」「アオイトリエン（青い鳥園)」とあります。しかし、語例に「キンノ■ホシシャ」があります。「青い鳥」の考え方からすると、「キンノホシシャ（金の星社)」となりませんか。違いはなんでしょうか。

また、青い鳥学級、青い鳥文庫のマスあけはどうなりますか。「学級・文庫」は自立しているので、「アオイ■トリ■ガッキュー」となりますか。

【A】

「青い鳥」と「金の星」の一語としての結びつきの違いになります。

「金の星」は明らかに文節分かち書きをする語であり、後ろに造語要素等が付いても「キンノ■ホシ」というマスあけに変化はありません。

それに対して、「青い鳥」「蜘蛛の巣」「麻の葉」「柿の葉」などは、後ろに造語要素が付いて新たな語を作ったり、後ろの語と複合語を作ったりすることが多い語と言えます。後ろの語と結びつくことによって、「てびき」ｐ63の「短い複合語」の【備考】や、p82「慣用句」にあてはまるとも言えるような語になります。

１語では、「クモノ■ス」ですが、「蜘蛛の巣状の」となれば「クモノスジョー」、「アサノ■ハ」ですが、家紋の「麻の葉紋」は「アサノハモン」と書くということになります。「柿の葉」もそれだけでは「カキノ■ハ」ですが、「柿の葉寿司」になると「カキノハズシ」となります。

「学級」のように区切る成分が後ろに付く場合は、本来の分かち書きで「アオイ■トリ■ガッキュー」「アサノ■ハ■モヨー」のようになります。

ただ、このように助詞などをはさんでも１語としての結びつきが強い語の方が数は少なく、ほとんどは「金の星社」のように分かち書き・切れ続きの原則に従って書くことになります。

金の■星社、主婦の■友社、山田■氏がらみの■疑惑、あはき師■等法、･･･
などとなります。

２．p63　１．短い複合語・略語　【備考】

「コーヒーの木」を一続きに書くのか、区切って書くのか判断の基準が分かりません。「ゴムの木、蛸の木」などは、「ゴム」「タコ」だけでは木と分からないために続けていると考えていいでしょうか。

【A】

「コーヒーノ■キ」と書きます。

「～の木」を一続きに書くかどうかは、p63【備考】の「内部に助詞を含んでいても１語として熟している短い複合語は一続きに書く」に当てはまるかどうかで判断します。ここは、基本的に「短い複合語」ですので、もともと３拍以上ある、「コーヒーの木」「イランイランの木」「幸福の木」などは、基本的な規則に従って区切って書きます。

続けるか区切るかの判断をするのは、「ゴムの木」「柿の木」「科の木」「樫の木」のような場合で、「の木」を付けなくても植物の木の名前であることが分かる場合は、区切って書き、「の木」までを含めて木の名前となっている場合は一続きに書きます。

点訳フォーラムの語例集では、

続くのは、ゴムノキ、シナノキ、タコノキ、タラノキ、トチノキ、ハンノキ、ムクノキ、モチノキ

区切るのは、カキノ■キ、カシノ■キ、カバノ■キ、シイノ■キ、スギノ■キ、ブナノ■キ、ホオノ■キ、マツノ■キ、モミノ■キとなります。

３．p64　２．接頭語・接尾語など

接頭語「反」についてお尋ねします。

フォーラムの点字表記の語例の中に「反社会■勢力」と「反■保守■勢力」の例があります。この違いは何でしょうか。「てびき」のp64・65では発音上の切れ目ということになるのでしょうか。

【A】

どちらも、「反社会」の勢力、「反保守」の勢力ですので、「反社会」「反保守」の切れ続きの違いになります。

「反」は、語頭に付く造語要素ですので、p64の規則に従って一続きに書くことが原則になりますが、語頭に付く１字漢語の造語要素は、後ろの語の語種や語の長さなどで切れ続きが異なってきます。

後ろの語が外来語や、固有名詞の場合はほとんどが区切ることになります。反■ユダヤ、反■テロ、反■ロヒンギャなどです。

後ろの語が、２字漢語＋造語要素の場合もほとんど区切って書きます。反■社会的、反■道徳的、反■理性的、反■体制派、反■政府軍などです。

問題となるのは、「反」＋２字漢語の時です。これは原則として続けて書きますが、１語としての意味のまとまりが弱い場合は区切ることになります。それが発音上の区切り目や日本語の標準的なアクセントによる判断ということになります。一語としての意味のまとまりが強い語は、一語として国語辞典の見出し語になっている場合も多く、反革命、反作用、反社会、反体制、などは、すべての国語辞典に掲載されている訳ではありませんが、一語としての意味のまとまりが強いといえます。

それに比べて、反原発、反腐敗、反保守などは、社会的な背景や時代によってはよく使われるかもしれませんが、一語としての意味のまとまりとして熟していないので、発音上の切れ目が生じることになります。

４．ｐ64　２．接頭語・接尾語など

「点字表記の語例」で、「心身共の」について「シンシントモノ」と一続きになっていました。他の語例を見ると主に切る場合が多いようです。「心身共の」を続けるのがなぜかはっきり分からなくて、質問させていただきます。

例：質量共に　シツ■リョー■トモニ
　　自他共に許す　ジタ■トモニ■ユルス
　　名実共に　メイジツ■トモニ
　　心身共の休養　シンシントモノ■キューヨー

また、ある文章中に「１・２とも千円」という文がでてきて（１・２の内容は前記されている)、「数１・■数２とも」と点訳されていて、「全部」の意味だからそれでＯＫかなと思って校正で指摘しませんでした。

たまたま「てびき」p127を見ましたら、《M/Ｌともお値段は･･･》という【処理】の文で、

外大Ｍ・■外大Ｌ■トモ■オネダンワ･･･

とありました。

外大Ｍ・■外大Ｌ＝トモ■

とはならないんだということは、「数１・■数２■とも」と校正で指摘すべきだったかと思いました。どう考えればよいでしょうか。

【A】

「共」が体言について「それら全部」を表す場合は、接尾語的に働き、前の語に続けて書きます。「５人共合格」「男女とも優勝」などです。それに「の」や「が」が付く場合もあります。「両方共の操作が必要だ」「心身共の休養」「５軒共が休みだった」などとなり、この場合も続けて書きます。

「共」に「に」が付いて、「共に」となると、副詞として働き、「と同時に」や「いっしょに」の意味になります。副詞ですので後ろの用言(動詞など）を説明・修飾します。副詞ですので自立語になります。

「心身■共に■疲れた」「名実■共に■日本を代表する作家」「自他■共に■許す」などとなります。

「てびき」p127の例の「とも」は、格助詞「と」に係助詞「も」がついたもので、全体として助詞であると判断し、アルファベットの後ろを、一マスあけにしました。「１・２とも千円」の「とも」も助詞とも言えますので、助詞と判断しても、数字の後ろですから一続きに書きます。

助詞か接尾語か、判断が難しい場合がありますが、仮名や数字の場合はどちらも前の語に続けて書くことになります。

５．ｐ64　２．接頭語・接尾語など

原本に『モノ・者との対話を楽しむ「双方向性」を促す』とあります。この「双方向性」について迷っています。「熱効率」の「Ｑ＆Ａ」を読み、「双方向」を辞書で調査しました。すると「明鏡国語辞典」・「新明解国語辞典」等に、見出し語で掲載してありました。見出し語になっているかいないかだけでは判断できないということですので、「語例集」も見てみましたが、「双方向」は「全方向」と同じように考え、続けるのでしょうか。

「双方向」に「性」が付いているので「双■方向性」となるのでしょうか。「合目的性」「無矛盾性」は一続きになっています。「性」が語尾にあっても一続きのものもあります。その違いの考え方を教えてください。

【A】

「双方向性」は、「双方向」に「性」が付いた言葉ですので、一続きに「ソーホーコーセイ」と書きます。

「熱効率」は、「てびき」ｐ69【備考】の規則で判断する語ですが、「双方向・双方向性」の「双」は１字漢語の造語要素ですので、p64「接頭語・接尾語など」に当てはまります。

【備考】にあるように、１字漢語の造語要素の中にも、後ろの語に連体詞的に働く語や、後ろに拍数の多い語が付くと区切って書いた方が分かりやすい場合が多い語もあります。「新・反・超・非・現・要」などはそれに当たります。

それに対して「全・半・被・未・無・最」などは、後ろの語と結びつきが強く、後ろが長くても一続きに書くことが多い語といえます。

「半強制的」は、「半強制」に「的」が付いたと考えられますが、「非人道的」となると「人道的」全体に「非」が付いたと考えられます。

「合目的性」も「合目的」に接尾語の「性」が付いていますし、「無矛盾性」も「無矛盾」に「性」が付いたので、一続きになります。

「非合理性」「非人道性」は、「合理性」「人道性」全体を「非」で否定していますので、「非」の自立性が強く、「ヒ■ゴーリセイ」「ヒ■ジンドーセイ」となります。

このように、語頭に付く１字漢語の造語要素の場合は、語全体の成り立ちと、その造語要素の自立性の双方から判断することになります。

６．p64　２．接頭語・接尾語など

この項に《「新住所地」の「新」は切るのですか》という質問があります。答えは、「シン■ジューショチ」と書きますとあって、最後に「新」も含めて一語としてのまとまりがある語は続けています。となっています。「まとまりがある語」がよくわかりません。「新社会人、新一年生、新入学生」は、どうでしょうか。

【A】

《「新」も含めて一語としてのまとまりがある語》とは、「新仮名遣い」「新政府軍」「新古典派」「新御茶ノ水駅」「新横浜駅」「新日本髪」のように、「新」が単に「新しい～」という意味を添えているだけではない語を指しています。

「新仮名遣い」といえば、「新しい仮名遣い」という意味だけではなく、「夕べ」を「ゆふべ」と書く仮名遣いに対して、「ゆうべ」と書く現代の仮名遣いを指しています。「新政府軍」と言えば、「新しい政府軍」だけではなく明治新政府の軍という意味を持ちます。「新古典派」も単に古典派を引き継ぐ学説ではない、新学説を唱えた学派を指しますし、「新横浜駅」も「新御茶ノ水駅」も、それぞれ横浜駅、御茶ノ水駅とは異なる駅です。「新日本髪」も日本髪ではなく、日本髪風にアレンジしたヘアスタイルを言います。このように、「新」も含めて新たな一語としてのまとまりを作っている語を指していて、このような語は「新」の後ろを続けて書きます。

新小学生、新一年生、新社会人、新入学生は、すべて、新住所地や新時刻表と同じ語の成り立ちと考えられますので、区切って書きます。

上記の説明は、《「新」は原則として、後ろの語と続けて書きますが、このように、後ろに付く語に接尾語や１字漢語の造語要素が付くと、拍数が増えることもあって、区切って書いた方が分かりやすくなります。》をお読みいただいているという前提で書きました。「新発明」「新開拓」「新校長」「新空港」などは、接頭語・接尾語の原則に従って一続きに書きます。

７．p64　２．接頭語・接尾語など

接頭語（造語要素）「旧」の切れ続きの考え方について、教えてください。

「旧住所」は続くのでしょうか、区切った方がよいのでしょうか。

例えば、「旧軽井沢」は「旧」がついている状態で一つの地名を指しているので区切ることができない。「旧正月」「旧大陸」などは一語として馴染みがあるのでひと続きといったあたりはなんとなくわかるのですが、その他が、うまく説明できない状態です。

造語要素「反」の解説のところで《語頭に付く１字漢語の造語要素は、後ろの語の語種や語の長さなどで切れ続き異なってきます。後ろの語が外来語や固有名詞の場合はほとんどが区切ることになります。後ろの語が、２字漢語＋造語要素の場合もほとんど区切って書きます。》とありますが、これは他の１字漢語造語要素にも当てはまる傾向でしょうか。

【A】

語頭に付く１字漢語は、続けて書くことが原則で、ただ、発音上の切れ目がある場合は区切って書くというのが全体としてのルールですが、その「発音上の切れ目」が一語一語微妙に異なるので、すべての造語要素に共通の判断基準を決めることは困難だと思います。

点訳フォーラムの「点訳に関する質問にお答えします」に掲載している「要」「反」「超」「新」なども、原則は同じですが、一語一語検討すると発音の切れ目やアクセントによる判断の基準が異なってきます。

「旧」については、点訳フォーラムとして以下のように検討し、語例集の収載語も現在のように見直しています。

接頭語は続けて書くという原則から、「旧正月」「旧大陸」「旧石器」のように辞書の見出し語にも採用されて、一語として熟している語は続けて書きます。

一方、固有名詞の前に付く場合は、固有名詞を明確にする意味から区切って書きます。ただ、旧軽井沢は例外で、お考えの通り、「旧」がついている状態で一つの地名を指しているので区切らないことにしています。

そして、上記以外の語については、発音の切れ目があれば区切って書きますが、「旧」については、発音上の切れ目があるかどうか曖昧な場合は、後ろに続く語の意味の理解を助ける意味からも、区切って書いた方が分かりやすいということにしました。

これらのことから、「旧住所」は「旧■住所」と区切った方がよいと思います。

「新」は、接頭語としての働きが、「旧」より強く、p64の原則に従って書く方が多くなります。他の１字漢語より外来語に付く例も多いと思います。

新シリーズ、新リーダー、新エネルギー、新プラン、新ドラマなど、すべて一続きに書いてよいと思います。

８．p64　２．接頭語・接尾語など

「在住」・「在勤」などの「在」は１語漢字で自立する意味のまとまりではないので一続き、「団体」は３拍以上の意味のまとまりで、「在」との間に発音上の切れ目があるので 「ザイ■ダンタイ」と考えるのでしょうか。

「在」と「全」との違いについて、よく理解できません。

「全市町村」「全公民館」は、「全」が接頭語なので一続きに書き、「在団体」は発音の切れ目があるので離す。全公民館の「全」は接頭語ですが、「在」は、文法的にはどの範疇なのでしょうか。

【A】

漢字１字の漢語の中には、語頭について接頭語的役割をする語と、名詞として連体詞的働きをする語があります。

「新」「非」「被」「無」「総」「最」「再」などは、接頭語としての働きが強いのですが、「要」「在」「満」「各」「同」「本」（同・本は「その」の意味のとき）などは、接頭語としてではなく、連体詞の働きをして後ろの語にかかっています。接頭語の働きをする語と異なり、自立した意味のまとまりとなります。

このようなことから、「新校長」「非人情」「被選挙権」「無国籍」「総選挙」「最優秀賞」「再出発」などは続けて書きますが、「要■冷蔵」「在■団体」「満■３年」「各■施設」などは区切って書きます。

ただ、これらの分類の境目は曖昧で、どちらともいえないような場合もありますので、語頭に付く１字漢語は判断がむずかしいところです。

９．p65　２．接頭語・接尾語など　【備考】

「副本部長」は造語要素が二つあるので「フク■ホンブチョー」と区切ってよいでしょうか

【A】

フクホンブチョー　と一続きに書きます。

造語要素が二つ付いているというのは、次のような場合です。

（理事＋長）＋　副　⇒　副理事長　＋　名　⇒　名■副理事長

（部会＋長）＋　副　⇒　副部会長　＋　新　⇒　新■副部会長

ご質問の語は、「本部」という言葉があり、その「長」である「本部長」に造語要素が一つ付いた形ですので、「副」と「本部」の間は続けて書きます。

10．ｐ65　２．接頭語・接尾語など　【備考】

【備考】にある「長い接尾語」の意味と判断基準は何でしょうか。

【A】

ｐ65「長い接尾語」の例として「かたがた」「こっきり」をあげています。

接尾語は、３拍以下の短い語が殆どですが、なかには、４拍以上で、区切って書いた方が分かりやすい語がありますので、そのような語は接尾語でも区切って書くことを表しています。また、漢語で「加減、次第、同士」などは、接尾語のように働きますが、３拍以上の漢語は語の下についても自立した意味のまとまりとなります。ただし、「はれがましい、ながったらしい、ふるめかしい」の「がましい、たらしい、めかしい」などのように長い接尾語でも区切ると意味の理解を損なう場合は続けて書きます。

11. ｐ65　２．接頭語・接尾語など　【備考】［参考］

「音楽フェス」についての文で、「1981年に現在のグラストンベリーフェスティバルにイベント名を変更し、何回かの休催年をはさみながら現在まで継続している50周年となる2020年の同フェスには･･･」とあります。

最後の方の『同フェス』についてです。

「てびき」p65「参考」の「後に続く語が２拍以下の場合は、続けて書いてよいでしょう」の説明により、点訳では同フェスを切らなかったのですが、１校では「その」の意により切ります（点訳フォーラム『同■会場』参照）と校正されました。どのようにしたらよいでしょうか。

【Ａ】

「てびき」p65［参考］には、「後に続く語が２拍以下の場合は、続けて書いてよいでしょう。２拍以下の語は、相手の語に続けて書くことが原則だからです」と書いています。

「点字表記の語例」では、「同会場」と「同地域」を、「同」が「同じ」の意味の場合は続けて書き、「その」の意味の場合は区切って書くことを示しています。そして、「同市」を「その」の意味で続けて書く例として挙げています。

「市」が２拍以下で、「会場、地域」が３拍以上だからです。

今回ご質問の「フェス」は２拍ですが、「フェスティバル」の略語の外来語です。外来語の場合は、相手が和語や漢語の場合、２拍でも自立可能な意味のまとまりとなりますので、「てびき」p65の［参考］でいっている、「２拍以下の語は、相手の語に続けて書くことが原則だからです」にそのまま当てはまらないことになります。ですから、校正された方の指摘の意図とは、少し異なりますが、結果的に、「ドー■フェス」と区切って書いた方がよいと思います。

「同県、同市、同会」などは、「その」の意味でも続けて書きます。

12. p65　２．接頭語・接尾語など　【備考】［参考］

「同」「本」の後に続く語が２拍以下の場合は、続けて書いてもよいとあります。下のような場合、「ホンムラ」「キュームラ」になりますか。

１．四年前の春、本村でも飲料メーカーに～

２．市町村合併の記念に旧村の村史をまとめることになった云々。

【Ａ】

１．同・本・当などの後ろに２拍以下の語が続く場合は、一続きに書いてよいというのは、２拍の漢語であることを想定しています。ほとんどの場合は音読みをするのが自然だからです。

「本村」も「ホンソン」という言い方もあると思いますが、「あさひむら」という村名の場合は「ほんむらでも～」と読みます。その場合は、「むら」の自立性から「ホン■ムラ」と区切って書いた方がよいと思います。「本町」も「ほんまち」と読めば、「ホン■マチ」となります。

２．旧村は「きゅうそん」と読めば「キューソン」、「きゅうむら」と読めば、やはり「キュー■ムラ」になります。「市町村合併」（シチョーソン）、「村史」（ソンシ）ですので、一般には「キューソン」がよいと思いますが、「～むら」という固有名詞が想定される場合は、「キュー■ムラ」でよいと思います。

13. p65　２．接頭語・接尾語など　【備考】［参考］

「同」について、［参考］で、「連体詞の働きをしている場合、原則として後ろを区切って書きますが、後に続く語が２拍以下の場合は続けて書いてもよいでしょう」とあります。

「同地区」を「ドー■チク」と点訳されているものがありますが、２拍以下なので続けた方がよいのか、それとも「続けてもよい」なので切ってもよいのでしょうか。

「地区」は２拍でも、漢語２字２拍なので、そのような場合は「同県」等とは違うのでしょうか。

【Ａ】

ドー■チクとなります。

p65【備考】の［参考］で、「後に続く語が２拍以下の場合は続けて書いてもよいでしょう」としているのは、自立していない続ける成分の場合を指しています。２字２拍の漢語は、３拍以上の語と同じように区切って書く成分ですので、
同地区は「ドー■チク」となります。

前に掲載している「同フェス」「本村（むら）」に関する質問でも、２拍の外来語や和語の場合について説明していますので参考になさってください。

p65でこのように中途半端な説明になっているのは、「てびき」での位置づけが、講習会等で、まだ複合名詞について詳しく学ぶ前になっているためです。複合名詞の切れ続きについてはｐ66以降に学ぶことになっていますので、このように曖昧な説明になってしまいました。このことを考慮してお読みください。

14. p65　２．接頭語・接尾語など　【備考】[参考]

「同」について、「同じ」の意である用法で、それが、名前の場合も続けるものですか。

清岡　道之助、同治之助　とある場合などです。

【A】

この場合の「同」は、造語要素や連体詞的な働きとは異なり、前に出てきた語句を繰り返し書く代わりに用いる用法で、マスあけは、「清岡　治之助」と書いた場合と同じ扱いになります。

「同■治之助」となります・

昭和60年入学

同　63年卒業

などとも用います。この場合も

昭和■60年■入学

同■63年■卒業

となります。

２　複合名詞

１．p66　「コラム17」

①「自立性が強い」とはどのような語をいうのでしょうか。それは辞典とかで分かりますか。

②「語例集」の空港横、屋敷跡などの備考欄に「複合名詞とは言えない」とありますが、これらは名詞＋名詞なので複合名詞だと思うのですが、「言えない」というのは何故ですか。

【A】

①　「てびき」第３章は、墨字の漢字仮名交じり文にはない点字独自の「分かち書き」「切れ続き」について述べているところですので、日本語の文法用語も用いられていますが、独自の用語も多く用いられています。

「自立した意味のまとまり」「自立性が強い」などは、点字独自の用語となります。「自立する」とは、分かち書き・切れ続きを考えたときに、それだけで区切って書くことができることを意味します。「自立性が強い」も区切って書いた方がよいという意味になります。

②「複合名詞」は、日本語文法の用語です。「てびき」ｐ66「コラム17」にもキーワードの説明がありますが、「複合語」は、「単独で用いることができる語が二つ以上組み合わされて新たに一語としての意味・機能を持つようになった語」です。例

えば「水草」といえば、「水」だけの意味でも「草」だけの意味でもない、「水中に生える草や藻」というあらたな意味を表します。それに比べて「水自体」は、単に、「水、それ自体」を表しており、水以上の新たな意味はありません。このように、名詞と名詞が並んでいれば必ず複合名詞を作るとは限りません。「空港税」は「空港」だけでも「税」だけでもない、「出国時空港で徴収される税金」という新たな意味を持ちますが、「空港横」は「空港の横」以外の意味はありません。このような語を「複合名詞とは言えない」と表現しています。

２．p67　１．３拍以上の意味のまとまり

「～次第」について、「点字表記の語例」では、「敵次第、腕次第、運次第」等は続いていますが、「式次第」は区切っています。どうしてでしょうか。
また、「すみ次第、でき次第」の切れ続きはどうなりますか。

【A】

敵次第、腕次第、運次第の「次第」は接尾語です。名詞や動詞の後ろについて、「そのことがなるがままにしておく」とか「～するとすぐ」などの意味を表します。接尾語ですが、「同士」「加減」と同様、漢語で３拍なので、３拍以上の自立可能な意味のまとまりとの間は区切って書きます。腕次第、運次第は一続きですが、あなた■次第、手当たり■次第などは区切って書きます。

「式次第」の「次第」は名詞で「物事の順序、経過、成り行き」などを表します。

「式次第」は「式の順序」の意味で、複合名詞とはいえないので、「式■次第」と区切って書いています。「事の■次第を■話す」「事と■次第に■よっては」などのような使われ方をします。

「物事が済み次第」や「でき次第」は接尾語ですので、「スミシダイ」「デキシダイ」と続けて書きます。

３．p67　１．３拍以上の意味のまとまり

「次第」の切れ続きに迷います。

「念を押しておくけど、採用するかどうかは何ともいえませんよ。あくまで作品の出来次第だからね」

「点訳に関する質問にお答えします」 第３章 その２ 複合語 「p67　１.」「p68　２.」などがありましたが、品詞や文の成り立ちが理解できませんでした。

【A】

サクヒンノ■デキ■シダイ　となります。

この場合、「出来」に連体修飾語「作品の」がつき、「作品の■出来」全体を受けての「次第」ですので、区切って書きます。

後ろが自立しない造語要素の場合は、「課長宛」でも「佐藤課長宛」でも「カチョ

ーアテ」の部分の切れ続きは変わりませんが、自立する意味のまとまりの場合は、連体修飾語も含めた全体の切れ続きを考えますので、前を区切ることになります。

「点訳に関する質問にお答えします」の「p68　２.」に「親同士」「客同士」を取り上げていますので参照してください。

４．p67　１．３拍以上の意味のまとまり

「高崎－横川駅間」「長野－篠ノ井駅間」のマスあけはどうなりますか。

「駅間」は辞書にないようですが。

【A】

「駅間」は辞書にはありませんが、「駅間の距離が長い」など自立する意味のまとまりとして用いられます。ご質問の場合は、「高崎と横川の駅間」「長野と篠ノ井の駅間」の意味ですので、

タカサキ③⑥③⑥ヨコカワ■エキカン

ナガノ③⑥③⑥シノノイ■エキカン

と書くのがよいと思います。

なお、高崎駅－横川駅間、長野駅－篠ノ井駅間となった場合は、高崎駅と横川駅の間、長野駅と篠ノ井駅の間ということになり、「間（かん）」は、接尾辞的なはたらきとなりますので、

タカサキエキ③⑥③⑥ヨコカワエキカン

ナガノエキ③⑥③⑥シノノイエキカン

となります。

５．p67　１．３拍以上の意味のまとまり【備考１】

「隣合わせ」「隣り合わせた」の切れ続きについて、点訳フォーラムの語例の中で、「隣合わせ」は「トナリ■アワセ」、「隣合わせた」は「トナリアワセタ」となっています。

複合動詞から転成した複合名詞の切れ続きについて、これまで「指導者ハンドブック第３章編」p42を参考に、「複合動詞から転成した複合名詞は、動詞の形にすると動詞終止形を作り、複合動詞からの転成でない語は、動詞の形にするときは「～する」となる」を参考に判断して来ました。

「隣合わせる」のような「名詞＋動詞」の複合動詞が複合名詞に転成した場合には、上の目安によらず、最初の名詞部分は(拍数が許せば)区切るのでしょうか。
他に似たような語の例が思いつかないのですが、考え方を教えてください。

【A】

複合動詞からの転成名詞の切れ続きの原則は、これまでのお考えの通りです。
ただ、「隣あわせ」「背中あわせ」は、「隣あわせになる」「背中あわせに座る」など

とはいいますが、複合動詞としてはあまり使用されないことから、「トナリ■アワセ」「セナカ■アワセ」と区切った方が分かりやすいとして、区切って書くことにしています。

もちろん「隣り合わせた」とあれば一続きに書きます。

「そぞろ■歩き」と「そぞろ歩く」などもそうですが、複合動詞から転成した名詞というより、複合名詞から類推して用いられるようになった複合動詞と考えられるケースがあり、そうであっても複合動詞の形で用いられていれば一続きに書きます。

６．p68　１．３拍以上の意味のまとまり　【備考２】

「非」について質問します。

非加熱■製剤、非課税■所得、非■政府■組織、非■営利■組織となっていますが、考え方を教えてください。

「非弾性衝突」はどう考えれば良いのでしょうか？

【Ａ】

「非」についてまとめると以下のようになります。

１．「非」は語頭につく接頭語的な１字の漢語ですので、直後の語と続けて書くのが原則です。

非加熱や非課税は、後ろに「製剤」や「所得」が付いても、付かなくても一続きに書きます。

非加熱■製剤、非加熱■殺菌、非課税■所得、非課税■貯蓄などとなります。

２．「非」がマスあけを含む複合語の全体にかかっている場合は、「非」の後ろで区切って書きます。

政府■組織　に対する　非■政府■組織

営利■組織　に対する　非■営利■組織

もともと「非政府」「非営利」という語のまとまりではなく、政府組織、営利組織ではないという意味の「非」なので、区切って書きます。

「非弾性衝突」の意味は、「弾性衝突とは対照的に、内部摩擦のために運動エネルギーが保存しない衝突」ということですので、「非」が「弾性■衝突」というマスあけを含む複合語全体にかかっています。

ですから「てびき」ｐ68　【備考２】により、「非■弾性■衝突」となります。

「非」では、１．と２．の明らかな区別は分かりにくいかもしれませんが、参考までに、「被」について考えてみますと、

「被」は、直後の語とほとんど例外なく続けて書きます。

被保護も続けて書きますので、「被保護■世帯」も続けて書きます。これは１．の例になります。

しかし、「被生活保護世帯」となると、「被」は「生活保護」というマスあけを含む複合語にかかっていますので、「被■生活■保護■世帯」となります。

「てびき」p68【備考２】が示す内容は以上のようになります。

７．p68　２．２拍以下の意味のまとまり

固有名詞（人名）に「いぬ」「ネコ」など２拍の動物名が付いたときは区切って書くでしょうか。続けて書くでしょうか。原本では主人公実弥子を「ミヤコネコ」と呼ぶところがあります。「てびき」のどこを根拠とするか教えてください。また、「ごんぎつね」は続けると思いますが、「ごんきつね」は切っていいのでしょうか。

【A】

２拍以下の語は自立した意味のまとまりではありませんので、切れ続きの原則に従い、人名の後ろでも続けて書きます。「ミヤコネコ」と続けて書きます。
イヌやネコのような動物だけでなく、たとえば「キンタローアメ」なども一続きに書きます。「イヌ」が後ろに付く場合でも同じです。「きつね」は３拍なので、区切って書きます。

８．p69　２．２拍以下の意味のまとまり　【備考】

「熱効率」は、広辞苑の見出し語には記載がありましたが、見出し語にあっても「熱■硬化」となっている語句がありますので、見出し語の有無は判断基準にはならないのでしょうか。

「てびき」p69【備考】の「１字漢語や和語が相手の語に対して自立性が強い場合区切る」の解釈に苦慮しています。

【A】

「熱」は１字の漢語ですから、基本的には後ろの語と一続きに書きます。

点訳フォーラムの語例集に収載されている「熱」が語頭にくる語について見てみますと、熱核反応、熱可塑性、熱硬化性、熱交換器、熱伝導率は、熱の後ろの語の前や後ろに造語要素が付いていますので熱の後ろで区切って書くと判断しています。核＋反応、可塑＋性、硬化＋性、交換＋器、伝導＋率のようになっています。

そのほかの、熱＋２字漢語は、「熱解離・熱機関・熱気球・熱産生・熱処理・熱設計・熱対流」など殆どが原則通り続けて書いていますが、

熱拡散　ネツ■カクサン
熱供給　ネツ■キョーキュー
熱放散　ネツ■ホーサン

は、区切って書くこととしています。

これは、「熱」と１語としての結びつきが弱いだけでなく、例えば「核■拡散」のようにほかの語とも複合語を作りにくい性質を持っているといえます。

「熱効率」は、原則通りに続けて書いてよいと思います。

ただ、「熱効率性」などとなれば「熱■効率性」となります。

国語辞書に１語として掲載されているかどうかは、ある程度の目安にはなりますが、それと、点字の分かち書き・切れ続きの規則とを照らし合わせて判断することになります。

９．p69　２．２拍以下の意味のまとまり　【備考】

「牛ハラミ」のマスあけはどうなりますか。「牛タン、牛ヒレ、牛もも」は続いています。「牛すね肉、牛ヒレ肉、牛もも肉」は区切っています。「牛そぼろのせ」は続いています。

「牛ハラミ」の場合、「そぼろ」と同様に続けるのか、「すね肉」などと同様に区切るのか、考え方の基準は何でしょうか。

【A】

「ギュー■ハラミ」と書くのがよいと思います。

「牛（ぎゅう)」「豚」「鶏（とり)」が「すね肉」「もも肉」「バラ肉」のように部位名を含む複合語と結びつく場合は、食材を明確にする意味もあり区切って書きますが、「タン」「ヒレ」「もも」「ロース」など単独の部位名と結びつく場合や、「牛そぼろ」「鶏団子」「鶏つくね」のように結びつきの強い料理名になっている場合は、複合語の切れ続きの原則に従って、続けて書きます。

ただ「タン」「ヒレ」「もも」「ロース」などは部位そのものを指す語であるのに対し、「ハラミ（腹身)」「ささみ（笹身)」などの和語は、「腹側の脂の多い肉」とか「笹の葉の形の上質肉」といったようなイメージを持つ複合語であることから、さらに牛とか鶏とかの語が複合した場合は区切った方が分かりやすいですし、「牛ヒレ」や「豚ロース」は一語的な発音ですが、「鶏ささみ」や「牛ハラミ」は「トリ■ササミ」「ギュー■ハラミ」のように発音の切れ目があるように思います。

10．p69　３．２字以上の漢語　(1)

「ばかうさぎ」の切れ続きについて、語例には「バカ息子」という語があり、離れていますが、接頭語的働きで続けるという意見もあるのですがどちらでしょうか。

【A】

「馬鹿」は、２字２拍の漢語で、「うさぎ」は和語で３拍ですので、間を区切って「バカ■ウサギ」と書きます。

接頭語的働きの例としては、「馬鹿正直」「馬鹿丁寧」「馬鹿笑い」などがあり、「非常に」「度外れて」と後ろの語を修飾する働きがあります。

「うさぎ」「息子」などの上に付く「馬鹿」は、「馬鹿」の元々の意味で用いていますので、複合名詞の切れ続きの原則に従って書きます。

11. ｐ69　３．２字以上の漢語

「指導者ハンドブック第３章編」p39に掲載されています「物理学的・インド人的」のコラムの内容で、「辞書に出ているから～」とあり形容動詞なので続けるとありました。「表記法 2018年版」では複合名詞の切れ続きに幅があったと考えています。小型辞書に「学的」が見出しに掲載されていますが「社会学的」はどうなりますか。

【Ａ】

「社会学的」は「シャカイガクテキ」と一続きに書きます。

『日本点字表記法 2018年版』が、『点訳のてびき第４版』より切れ続きに関して幅を認めているのは、「複合名詞」に関してです。

「～学的」は、複合名詞ではなく形容動詞ですので、「表記法」に照らしても、一続きに書くことに変わりはありません。

また、小型の国語辞典に見出しがあることは、「名詞」であることの根拠にはなりません。小型の国語辞典の見出しには、名詞だけでなく、形容詞、動詞、助詞、助動詞、連体詞など、全ての品詞がありますので、国語辞典の見出し＝名詞にはなりません。

12. p71　５．外来語

『あなたの記念日ハウマッチ』や、『これいくらですか？ハウマッチ？』の「ハウマッチ」について、「てびき」ｐ71の原則により５拍だから続けるという意見と、「てびき」ｐ74「コラム18」の③により区切るという意見で分かれています。

似たような語で「グッドバイ」はどうでしょうか。「ノーサイド」は語例集で続いており、このように外来語扱いと英語（外国語）扱いの区別について悩みます。

【Ａ】

ハウマッチは英語の表現をカタカナで書いたものですので、外来語のルールではなく、英語の単語ごとに区切って書きます。「ディス■イズ■ア■ペン」などと同様に、「ハウ■マッチ」と書きます。

外国語の片仮名書きか、外来語かの判断は難しいところですが、判断の目安の一つは、複合名詞になっているかということだと思います。「ノーサイド、ノーゲーム、ノウハウ」などは、名詞として一語化しているので、一続きでよいと思います。
一方、「ハウマッチ」は２語で副詞的、「グッドジョブ」は形容詞と名詞で一語とは言えませんので区切って書いた方がよいと思います。「ハウ■マッチ、グッド■ジョブ」となります。

ただ、「グッドバイ」は例外的で、とくに馴染み深く、グッドとバイから成ることを意識せずに１語として使われていますので、続けて書いています。「グッドバイ」となります。

グッジョブやグッバイのように略されていれば一続きに書きます。

13. p71　５．外来語

「mRNA　ワクチン」の「mRNA」の上部分に「メッセンジャーアールエヌエー」というルビがついている場合、点字では

メッセンジャー■アール■エヌ■エーという書き方になるのか、メッセンジャー■アールエヌエーとなるのか、どちらでしょうか。

【A】

「メッセンジャー■アールエヌエー」と書きます。

単にアルファベットが並んでいるのではなく、 アールエヌエーという物質名ですので 、アールエヌエーは一続きに書いて良いと思います。

ＪＲやＰＴＡなども、ジェイアール、ピーティーエーと書きます。しかし、ポルシェＲＸ等の場合は、アールもエックスも３拍以上ですので、アール■エックスになります。

14. p71　５．外来語　(1)

「ダージリンティー」の原本表記が「ダージリンティ」の場合の分かち書きを教えてください。外来語同士の複合語で、６拍ありますが、５拍＋１拍です。

【A】

外来語同士の複合語の場合は、２拍＋４拍、３拍＋３拍以上になれば、間を区切って書くとしていて、１拍は区切る成分に入れていませんので、原則に従えば、「ダージリンティ」と続けて書くことになります。

15. p71　５．外来語　(1)

ステップについて「ツー■ステップ」「フォー■ステップ」「ステップ■５」と切りますが、数字が頭になると「２ステップ」となりますか。

例を見ると「２トップ」「２バウンド」などがあり、区別がわかりません。

【A】

数字が数量や順序を表す場合は、後ろの語と続けて書きますので、「数２トップ」「数２バウンド」は続けて書きます。

しかし、「ワン、ツー、スリー」となると、カタカナで書かれた外来語になりますので、切れ続きは拍数で決まります。

「ツー■ステップ」「フォー■ステップ」は、２拍＋４拍になりますので、「てびき」p71　５．(1)に準じて、区切って書きます。

「ツートップ」は２拍＋３拍で一続き、「ツー■バウンド」は、２拍＋４拍で区切って書きます。

16. p71　５．外来語　(1)

翻訳物の点訳に多く出てくる中点を含む語の分かち書きについて伺います。

１．スペシャル・キウイ・パフェ

２．バナナ・キャンディ・バー

３．スーパー・キャリア・レディ

４．ゴールド・ラテ・ショコラ

５．ショコラ・ラテ・キャンディ

上記のような場合、全て中点を外し、「５　外来語」に則って、３拍＋２拍の部分は続けて書いてもよいでしょうか。

１．スペシャル■キウイパフェ

２．バナナ■キャンディバー

３．スーパー■キャリアレディ

４．ゴールド■ラテショコラ

５．ショコララテ■キャンディ

この場合、p102 (2)の②の用例にある「メイド■イン■ジャパン」のように区切ってよいのか、p103【備考】「本来一続きに書く語は、中点を省略し、一続きに書く」に則って続けて書けばよいのか迷います。

【A】

外来語の切れ続きの原則は、p71　５．(1)ですが、３個以上の要素がある場合は、どちらの語との結びつきが強いかによってマスあけを判断することになると思います。

１．スペシャル■キウイパフェ　　スペシャルなキウイパフェ

２．バナナ■キャンディバー　バナナ味のキャンディバー

３．スーパー■キャリア■レディ　　スーパーキャリアなレディ

４．ゴールド■ラテ■ショコラ　　ゴールドラテのショコラ

５．ショコララテ■キャンディ　ショコララテのキャンディ

３．は、スーパーキャリアなレディの意味でよいのか、これだけでは判断できないのですが、そうであればすべて区切ることになると思います。

また、４．は、「ラテ」は、語の後ろに付いているようで、スターバックスに「ゴールドラテ」という商品があると書いてありましたので、それでよければ区切って書くことになります。

17. p73　５．外来語　(4)

「セミノックダウン」の表記について伺います。

ノックダウンの意味は機械を解体するという意味です。

ノックダウンは「ノック■ダウン」とマスあけすると思いますが、それに自立性の弱い「セミ」が語頭に付いた場合、セミノックダウンと続けてよいでしょうか？ワンボックスタイプは ワン■ボックス■タイプとマスあけするが、ワンボックスカーは一続きというフォーラムを参考にしました。

【A】

「セミ■ノック■ダウン」と書くのがよいと思います。

「てびき」p73　(4)では、「セミ」は、語頭に付く自立性の弱い語に入っています。しかし、「セミ」は接頭語としての性質を持っていますので、後ろに続く語にマスあけがなければ、長くても続けて書きますが、マスあけを含む複合語全体にかかる場合は、ｐ68【備考２】に準じて書くことになります。

「ノックダウン」は区切って書く語ですので、「セミ」が「ノックダウン」全体にかかる場合には区切って書きます。

「カー・マン・デー・ホン」のように語尾に付く語は、前の語の切れ続きにかかわらず続けて書きますが、語頭に来る語の場合は、ｐ68【備考２】のルールも合わせて考えることになります。

18. p75　７．数字を含む複合語

「140万労働者」という語があります（140万人の労働者という意味です)。

「140万■労働者」か「140万労働者」と続けるかで意見が分かれています。続ける根拠として、「てびき」p75の7（1)、「数字の後ろに語が付いてできた複合語は、数量や順序の意味がある場合は数字で書き、後ろの語と続けて書く」があるのではないかと思います。

一方、点訳フォーラムの点字表記の語例に「一千万都民（1000マン■トミン)」があります。「140万労働者」はこれと同じ構造なので、「140万■労働者」と区切ると結論しましたが、7（1）に該当しながらそれに反して区切る理由が分かりません。7（2）に従って区切るのは、例にある「504■会議室」のように数字部分に意味がある場合だと思いますが、これには該当しません。

「140万」と「万（マン)」が付くことにより、単なる数字ではなく自立した語とみなせるからということでしょうか。

【A】

「数１４０マン■ロードーシャ」と区切って書きます。

数量や順序を表し、続けて書く場合は、後ろが助数詞の働きをします。

都民や労働者、国民などは、大きなまとまりの性質を表す言葉で、数字の後ろに付いて数や量を表す助数詞の働きをしません。「５都民が走った」「３労働者が歩いた」のようには用いず、「５人の都民が走った」「３人の労働者は歩いた」のように言います。

「一千万都民」は、「一千万」を象徴的に用いて、「1000万人もの都民」であることを表していますので、「数１０００マン■トミン」と区切って書きます。「140万労働者」も同じで、140万人もの労働者という意味ですので「数１４０マン■ロードーシャ」となります。

なお、「一都民として発言します」「私は、一労働者ですが」のような表現はありますが、この場合の「一」は、単に数量を表すだけでなく、「取るに足らないもの、ある一人の者（無名の)」というような意味になります。この場合は、「数１トミン」「数１＝ロードーシャ」となります。

３　複合動詞・複合形容詞など

１．p76　１．複合動詞

複合動詞は、動詞の連用形に動詞が続くと習いましたが、あまり聞きなれない言葉は迷います。

『広辞苑』の「聞く（聴く)」に「物事をためし調べる、かぎ試みる、味わい試みる」と出てくるのですが　これらは全て複合動詞として続けて書くことでよろしいでしょうか。

【A】

「タメシシラベル」「カギココロミル」「アジワイココロミル」と複合動詞として、ひと続きに書いてよいと思います。

「指導者ハンドブック第３章編」p41にありますように、

二つの動詞が合わさって一つの動作・状態を表す

二つの動詞の主体が同じである

時間的にかけ離れていない

動作や状態の方向が一致している

二つの動詞が「～て（ながら）･･･する」のような一連の動作になっている

などが複合動詞かどうかの判断の目安になります。

ご質問の三つの言葉は上の条件を満たしていますので複合動詞と判断していいと思います。

４　その他の注意すべき切れ続き

１．p81　２．連濁

「飼い殺される」は、連濁するのでしょうか。

「飼い殺し」は辞典で「かいごろし」と、書かれています。動詞と名詞の違いや和語、漢語の違いで変わるのでしょうか。

【A】

「飼い殺し」は名詞として連濁していると思いますが、「飼い殺される」は複合動詞で、あまりなじみのない表現です。

一般に、「動詞＋動詞」の複合動詞は原則として連濁しないと言われています。

「切る」＋「放す」＝キリハナス

「着る」＋「替える」＝キカエル

「積む」＋「重ねる」＝ツミカサネル

「飼う｝＋「殺される｝＝カイコロサレル

と、連濁しない方がよいと思います。

２．p81　２．連濁

仙骨座りの読み方は、センコツ　スワリ・ズワリと両方あります。

フォーラムにはオバアサン■スワリとありますが、ズワリとならないのは、なぜでしょうか。辞書に載っていない時の連濁にするかどうかの判断基準はありますか。

【A】

連濁するかどうかは、ハッキリした規則はなく、一般に「普通は連濁しない場合」について、以下のように言われています。

①　後ろの部分がすでに濁音を含んでいる場合

例　　焼きさば、焼きそば、紙くず

②　後ろの部分がすでに複合語である場合

例　　焼きしらこ、焼きたらこ

③　後ろの部分が外来語である場合

例　　焼きトマト、ガラスケース

④　後ろの部分が漢語の場合

例　　証明写真、入学試験

⑤　意味的に、後ろの部分にとって、前の部分が『目的格』に相当する場合

例　　明かり取り、音頭取り、すもう取り、ちり取り、手取り足取り

⑥　前後の言葉が意味的に並列の場合

例　　すききらい、山川（山と川の場合)、田畑

⑦　動詞と動詞の複合動詞の場合

例　　着替える、凍え死ぬ

しかし、これらには例外が多いのが実情です。

たとえば、①の「縄ばしご」など、③には「雨合羽、いろは歌留多」など、④には、「株式会社、わさび醤油」など。

このように連濁についての、上記①～⑦は一応の目安とはなるものの、時代によって、地方によって、年代によって混在し、混乱しています。ＮＨＫの読み方も、清音だった語が連濁に変わったり、どちらでもよくなったりしています（ゼイヒキ→ ゼイビキ、コーリカシ→コーリガシなど)。

「座り」は、連濁してもしなくてもよい語に分類されますから、「仙骨座り」も「センコツ■スワリ」「センコツズワリ」どちらもあると思います。

点訳フォーラムの語例集の「オバアサン■スワリ」は、点字では、連濁は全て続けるのでマスあけに迷うことはありませんから、連濁しない方の書き方を示しています。

ただ、点字では、連濁すると非常にマス数が多くなる場合もあり、また元の語を明らかにしたり、語と語の結びつきを明らかにする意味からも、どちらでもよい場合は、連濁しない方を選ぶことが多いのではないかと思います。

３．p83　５．繰り返し言葉

老婆の祈りの言葉で次のような場合は、どこで区切るのでしょうか。

「んーんーんーんーんーんー・・・んんー・・・んーんーんーんー」

擬声語のように２拍の繰り返しと考えて区切るか、「んー」毎に区切るのがよいのか、歌のようなものだから一続きにするのがよいのか、意見が分かれています。

【Ａ】

繰り返し言葉ではありませんので「んーんー」で機械的に区切ることは避けた方がよいと思います。この祈りの言葉が具体的に分かる場合は、マスあけもそれにあわせますが、この場合は文言が分からないので、原本の通りに続けるのがよいと思います。

「ンーンーンーンーンーンー■・・・■ンンー■・・・■ンーンーンーンー」

４．p84　５．繰り返し言葉　【備考３】

おもちゃの銃で「たったったったっなんて」撃ってくる。

この「たったったったっ」の切れ続きはどうなるのでしょうか。２拍の擬声語・擬態語の連続は「ズルズル■ズルズル」と同じ要領で区切りますか？

【Ａ】

【備考３】では「２拍以下の繰り返しは続けて書く」のルールだけが示してありますが、２拍が４回繰り返してある場合は、２回の繰り返しが２回あると考えて、一般に、「ズルズル■ズルズル」と区切って書きます。ただ、リズムも考慮に入れると、銃の音は、「たったっ　たったっ」という２回の繰り返しでは不自然に思われます。この場合は、「タッタッタッタッ」と続けた方がよいと思います。

５　動植物名・理化学用語・医学用語・漢字や仮名で書かれた単位

１．p84　２．理化学用語

「脱炭素社会」について、「語例集」に「ダツタンソ■シャカイ」と出ていました。

「ダツタンソ」と続く場合と、「脱都会　ダツ■トカイ」のように一マスあけになる場合の違いを教えてください。

【Ａ】

「脱」は、脱原発（ダツ■ゲンパツ）、脱都会（ダツ■トカイ）、脱サラリーマン（ダツ■サラリーマン）など、１字漢語でも自立した意味のまとまりとしての働きが強い語といえます。「脱サラ」は、短い略語になります。

ただ、理化学用語・医学用語としては、「脱酸素剤（ダツサンソザイ）」、「脱炭素化（ダツタンソカ）」「脱感作（ダツカンサ）」「脱分極（ダツブンキョク）」など、一般に使われる「ある状態から抜け出す、逃れる」というような意味とは異なり、それぞれの特殊な機能・働きを表す言葉となりますので、一続きに書きます。

「脱炭素社会」は、「炭素社会」に「脱」が付いた語ではなく、「脱炭素」の「社会」を表しますので、「ダツタンソ■シャカイ」となります。

その３　固有名詞

１　人名

１．p88　２．敬称・官位など

「源氏物語」の登場人物の切れ続きについて伺います。「Ｑ＆Ａ集」のＱ70にあるように、人名に官位・官職がついている場合は拍数によって判断し、職名の場合は区切って書くとあります。例えば、源少納言（源氏の流れをくむ源良清）は源が２拍であり、ゲンショーナゴンと続け、按察大納言（あぜちのだいなごん）は通称が、紅梅大納言（こうばいのだいなごん）で按察が官職名なので、アゼチノ■ダイナゴン、コーバイノ■ダイナゴンと考えてよいでしょうか。

【Ａ】

「ゲンショーナゴン、アゼチノ■ダイナゴン、コーバイノ■ダイナゴン」の切れ続きは、書かれているとおりです。

ただ、ゲンショーナゴンやセイショーナゴン、サイショーニン、トーシキブなどが一続きなのは、固有名詞の部分の拍数ではなく、人名が省略されて、固有名詞部分に自立性がなくなったためです。

固有名詞の固有の部分は、２拍でも自立する成分ですので、

アボ■シンノー（阿保親王）のような場合は区切って書きます。

２．p88　２．敬称・官位など

源氏物語をテーマにした読み物で、紫式部・越後弁・中将の君・小式部・明石の上などが登場します。これらに「さん、様」が付いたときの切れ続きはどうなりますか。

また、「点字表記の語例」を見ると、「アカシノ■キミ」「ムラサキノウエ」となっていますが、「明石の上」は「アカシノ■ウエ」なのでしょうか、それとも「アカシノウエ」となるのでしょうか。「紫の上」は「ムラサキノウエ」と続けてありますが、「紫の君」・「若紫の君」は「紫の上」と同じ考えでよろしいでしょうか。そして、「明石の君」との違いはどのように考えたらよいでしょうか。

【A】

「ムラサキ■シキブ、エチゴノベン、チュージョーノ■キミ、コシキブ、アカシノウエ」となり、式部、弁、君、上などは、立場や役職などを示す普通名詞になりますので、「さん、様、」などは続けて書きます。「てびき」ｐ90【備考１】に当てはまります。

越後弁殿（エチゴノベンドノ）、明石の君（アカシノ■キミ）、葵の上（アオイノウエ）などが、「点訳フォーラム」の「点字表記の語例」にありますので、参考になさってください。

「君（きみ）」、「上（うえ）」は、どちらも敬意を込めた言い方ですが、この場合は、語としての自立性が異なります。

「君」は、人名や役職名に付く尊敬語で、具体的な意味を持つ名詞ですので、「君」の前で区切って書きます。

「上」「方」などは、方向を示す言葉を用いて間接的に「夫人」「奥方」を示す使い方です。この場合の「上」「方」は接尾語的で、「～の上」「～方」までを含めて１語になっていますので、助詞の「の」も含めて一続きに書きます。

３．p88　２．敬称・官位など

「師」についてご質問です。尊称でも「氏」のようにマス開けしないことが点訳フォーラムに記してあります。ですが、例えば小説の登場人物の学者の名がエドモンド・トンプソン師という場合、「エドモンド■トンプソン■シ」としてはいけませんか。ほかに「○○氏」の表記の登場人物はなく、この場合「氏」と同様の意味で「師」を用いてると思われるのですが。２拍の敬称としてやはり続けるほうがいいでしょうか。

【A】

人名に続く「さん・様・君・殿・氏（し・うじ）」は、接尾語ですが、人名を明らかにするために区切って書いているのは、例外的な処理になります。同じような意味でも、これ以外には広げることはしていません。方言の「どん、はん、さあ」な

ども続けて書きます。「師」も接尾語としての尊称で、１拍ですので続けて書きます。
エドモンド■トンプソンシと書いて、区切って書くよりも誤読されるということはないと思います。

４．ｐ89　３．「さん」「様」「君」「殿」「氏（し・うじ）」

「さん」が略されたり、方言の一種として「太郎さ」「太郎さあ」と使われている時、「タロー■サ、タロー■サア」としていいでしょうか。

【Ａ】

「タローサ、タローサア」と続けて書いてよいと思います。

「さん、様、殿」が変化した「はん」「さあ」「どん」などは続けて書くことをお勧めしています。「点字表記の語例」で、前方一致で「山田」で検索すると「山田さあ」「山田しゃん」「山田どん」「山田はん」などが方言で続く例としてヒットします。

「てびき」p89の「さん・様・君・殿・氏」は接尾語であっても、人名を明確にするための例外的なルールですので、この範囲を広げない方がよいと考えています。

５．p90　３．「さん」「様」「君」「殿」「氏（し・うじ）」【備考２】

外国人名の愛称についておたずねいたします。外国人の愛称は判断しにくいですが文脈から愛称であることが分かった場合、例えばレーガン元大統領の愛称「ロン」に「さん」が付いていた場合は「ロンさん」と書いてよいでしょうか。また愛称らしくても判断できない場合は区切って書いてよいでしょうか。

【Ａ】

外国人名でも、愛称の場合は、「さん」を続けて書き、愛称でない人名の場合は、「さん」を区切って書きます。判断しにくい場合も、どちらかに判断して書くことになります。ロンが愛称であれば「ロンサン」と続けて書きます。

ただ、トムやベティーなど一般には名前と考えられているものでも実際には愛称や短縮形の場合も多くありますので、判断に迷った場合は、固有名詞を浮き出させるという意味で区切って書くほうがよいと思います。

６．p90　３．「さん」「様」「君」「殿」「氏（し・うじ）」【処理１】

本名は不明ですがあだ名で「朱美さん」と呼ばれている女性登場人物がいます。「アケミサン」「アケミ■サン」のどちらでしょうか。

【Ａ】

「あだ名」ということですが、「朱美」は女性の名前として使われるものですので、愛称・短縮形というより、ペンネームや職業上の名前のような扱いで「てびき」p90【処理１】に準じて、「アケミ■サン」と書くのがよいと思います。

７．p90　３．「さん」「様」「君」「殿」「氏（し・うじ)」【処理１】

洗礼名の後ろに「様」が付いたとき、例えば「ジュスト様（高山右近)」は、続けるのでしょうか、区切って書くのでしょうか。

【A】

洗礼名は、「てびき」p90【処理１】に従い、人名に準じて区切って書いてよいと思います。

ジュスト■サマ

２　地名

１．p91　１．地名

住所だけの例は「てびき」にあるのですが、所属部署が複数ある例がなく、迷います。

〒300-1511　椚木15藤代スポーツセンター「スポーツ振興課取手市民ペタンク大会係」宛て

ユー■数３００－１５１１■■クヌギ■数１５■■フジシロ■スポーツ■センター■「スポーツ■シンコーカ■トリデ■シミン■ペタンク■タイカイガカリ」アテ
でしょうか。

クヌギ■数１５■フジシロ■スポーツ■センター■■「スポーツ■シンコーカ■■トリデ■シミン■ペタンク■タイカイガカリ」アテ
でしょうか。

【A】

住所を「〒300-1511　椚木15」までと考えるか、「〒300-1511　椚木15藤代スポーツセンター」までと考えるかによって異なると思いますが、ネットで取手市の組織図を見ると、スポーツ振興課は、藤代スポーツセンターの組織ではなく、取手市教育委員会内の組織のようです。

ですから、この場合は「〒300-1511　椚木15藤代スポーツセンター」までが住所と考え、

ユー■数３００＝数１５１１■■クヌギ■数１５■フジシロ■スポーツ■センター■■「スポーツ■シンコーカ■■トリデ■シミン■ペタンク■タイカイガカリ」アテ
と、書くのがよいのではないでしょうか。

２．p94　３．地名・自然名に続く言葉　【処理】

外国地名の分かち書きについてですが、原本に「フロリダ州の、カーティス・ベ

イ」とありまして、点訳者は中点のところで区切りました。１校の校正者は、「てびき」に載っている「トーキョーベイ」は区切ることができるけれど、外国の地名の場合は、２拍以下のまとまりは続けて書くとしました。

「トーキョーベイ」はベイを区切りますが、外国の地名のベイも区切ってよろしいのでしょうか。

【Ａ】

カーティス・ベイは湾の名前のようですので、カーティス■ベイとなります。

「３拍以上の意味のまとまりが二つ以上あれば、その境目で区切る」のは「地名」です。湾の名前は、川、峠、岬などと同様に「自然名」になります。「てびき」p93以降を参照して、この場合は、p94【処理】に準じてよいと思います。ここには日本か外国かの区別はありません。

３　その他の固有名詞

１．p94　１．その他の固有名詞

市立の施設に「生涯学習プラザ」があります。

市内に12カ所あり、「～（地区名）生涯学習プラザ」となっていますが、それぞれ愛称がつけられています。「梅プラザ」の場合、『てびき』p95の「森ホール」を参考にすると「ウメ■プラザ」となると思いますが、「うめぷらざ」で固有名詞として認識されています。やはり原則どおり、点字では区切るべきでしょうか。

【Ａ】

「ウメ■プラザ」となります。

全体で固有名詞ですが、「プラザ」が３拍の普通名詞部分になっていますので、固有名詞の固有の部分である「ウメ」とは区切って書きます。

全体で固有名詞であっても、普通名詞部分の拍数によって切れ続きが異なってきます。

神奈川県に「たまプラーザ」という地名があり、「たまプラーザテラス」「たまプラーザ駅」なども省略して「たまプラーザ」といいますが、「プラーザ」は普通名詞部分ですので、「タマ■プラーザ」となります。「プラーザ」も省略されて「たまプラ」となれば一続きになります。

ＮＨＫ教育テレビが「Ｅテレ」「Ｅテレビ」という略称を用いていますが、「Ｅテレ」であれば、つなぎ符をはさんで「Ｅ＝テレ」と一続きに書きますが、同じ略称でも「Ｅ■テレビ」となります。

２．p94　３．その他の固有名詞

「中国の明清時代」の明清はどのように表記すればよいのでしょうか。

明も清も固有名詞ですから、ミン■シンと切ってよいのでしょうか。それとも「米英」は続けるが、「米英ロ」は切ると同じに考えて続けるのでしょうか。

【A】

「ミン■シン■ジダイ」と書くのがよいと思います。

明・清・唐・隋などは国名ですので、拍数に関係なく区切る成分になります。

日・英も、「ニチエイ」は続けますが、「ニホン■イギリス」となれば区切って書きます。

語例集には、「呉■楚■七国の■乱」がありますので、そちらもご確認ください。

なお、「米英ロ」を区切るのは、要素が三つになるためです。「ベイエイ」「ベイロ」「エイロ」は続けますが、「ベイ■エイ■ロ」は区切って書きます。「日独伊」も「ニチ■ドク■イ」となります。

３．p96　「コラム22」

台湾の人名・地名・建物名・組織名・書名などについて、「コラム22」には「中国の人名や地名は、漢字の音読みとするか、日本で定着している原音読みとします」とあります。

①台湾も中国に準ずると考えてよいですか？

②原音ルビが「唐」という姓に「タン」とついていた場合はルビがついていない「唐」という姓はすべて「タン」で統一してよいでしょうか。

③なじみのない漢字、たとえば「杜奕瑾」は、中国語⇒カタカナ変換ツールでは「ドゥ　イージン」となりますが、音読みでは「奕」は「ヤク・エキ」「瑾」は「キン・ゴン」となります。変換ツールで原音に変換した方が悩まなくていいのですが、いかがなものでしょうか。また台湾はボポモフォというピンインとは違う発音らしいですがこれは無視していいですか。

④台湾語の合言葉などはどう点訳すればよいでしょうか。

禦敵従厳（誰でも敵になる可能性がある。～以下　略）

中国語変換ツールで変換すると「ユーディツォンイェン」となります。音読みだと「ギョテキ　ジュウゲン」でしょうか。

社名「資訊人出版社」やハンドルネーム「我愛大象大象我愛」なども原音読み（変換ツール）か音読みかどちらがいいでしょうか。

【A】

①台湾の人名・地名についても、中国の固有名詞の処理に準じてよいと思います。一般には、漢字の音読みとするか、日本で定着している原音読みとしますが、原音のルビが付いていれば、ルビの読みを取ります。また、現在活躍している人物で、原音読みの方がなじみがある場合は、原音読みをしてよいと思います。

②　中国・朝鮮姓として「唐」は「タン」と読むのが一般的のようですので、ルビがなくても姓としては「タン」と書いてよいと思います。

③　ネットで見ると、杜 奕瑾（トゥ・イーチン､プログラマー）とあります。原音読みでよいと思います。

④　固有名詞と違い、慣用句や故事などは原音読みをしても、点字で読んで見当が付きませんので、文脈によって、原音を先に書いてカッコ内に日本語の音読みを添えるか、日本語の音読みを書くか、どちらかにするのがよいと思います。そして原文にその意味が書いていない場合は、点訳挿入符で囲んで、簡潔に意味を添えた方がよいと思います。

ご質問の語の場合も、漢字を音読みし、適宜まとまりを判断して点訳するのがよいと思います。

「ギョテキ■ジューゲン」として、原文にある「誰でも敵になる可能性がある」を添えればよいと思います。原文に意味が書いてない場合は、「テキヲ■フセギ■イマシメニ■シタガウ」など、漢字から読み取れる意味を簡単に補うか、文脈によっては「カンジ■数４ジ」などの補足でもよいかもしれません。

会社名・ハンドル名などは、漢字の音読み、または現地音の方が処理しやすい場合はそれでもよいと思います。

ハンドルネーム「我愛大象大象我愛」は「象さん大好き」のような感じなのかもしれませんが、ハンドルネームに込めた意味が文脈上とくに意味を持つ場合を除いて、そこまで説明しなくてもよいと思います。

この場合「ウォ■アイ■ダーシアン■ダーシアン■ウォ■アイ」または、「ガ■アイ■ダイゾー■ダイゾー■ガ■アイ」などとし、必要であれば漢字の意味を補ってはいかがでしょうか。

なお、③で、「奕瑾」イージン、イーチンなどの違いがありますが、そもそも中国語で「ジ」と「チ」の中間の音ですので、カタカナで書く際には当然幅が出てくる部分になります。

その４　方言・古文など

１．p97　１．方言の分かち書き

「おてもやん」の歌詞のマスあけはどうなりますか。

「げんぱくなすびのいがいがどん」

「後はどうなっと　きゃーなろたい。」

【A】

「玄白茄子のいがいがどん」は、見た目の悪い（できの悪い）茄子のようなとげとげした男達のことを表しているとのことで、「どん」は「西郷どん」とおなじ方言のようです。

ここから、ゲンパク■ナスビノ■イガイガドンと書いてよいと思います。

「後はどうなっと　きゃーなろたい。」は、「あとはどうにでもなる」という意味とのことです。「きゃあ」は、強調の接頭語とのことです。

アトワ■ドーナット■キャーナロタイ

２．p97　２．古文・漢文の分かち書き

古文の語の分かち書きについて、「てびき」p222で、敬意を表す補助動詞は、前を区切るとありますが、「答え申す、尋ね申す」などは「コタエ■モース、タズネ■モース」と区切るのでしょうか。

【A】

「てびき」ｐ222【備考２】は、教科書・参考書などの学習書で、古文の文法や仕組みを理解することを目的に決められたルールです。

参考書の場合はこのルールに準じて点訳をしてください。

その場合は、コタへ■マウス、タヅネ■マウスとなります。仮名遣いも古文の仮名遣いになります。

一般書の場合は、「てびき」p23（8)、ならびにｐ97［参考］をご覧ください。現代の仮名遣いで点訳する場合は、「コタエモース」「タズネモース」となります。

３．p97　２．古文・漢文の分かち書き

古文を古文表記で点訳するときの「こころ」を含む語についてのマスあけに迷っています。現代語の「こころよわい」「こころにくい」「こころない」は、語例集で続いていますが、古文でも「こころよわく」「こころにくし」「こころなし」などは古語辞典に形容詞として見出し語にありますので一続きに書いてよいと思っています。「こころふかく」「こころふかし」は、どうなりますか。

古語辞典では形容詞として見出し語にあるのですが、判断基準を教えてください。

【A】

「点訳フォーラム」の語例集には、古文で書き表す場合の書き方は掲載していませんが、「心深し」も多くの「古語辞典」で形容詞とされていますので、古文を古文の点字表記で点訳する場合で、「心深し」が形容詞として用いられているときは、一続きに書いてよいと思います。

「日本点字表記法　2018年版」の「第６章古文の書き表し方」では、源氏物語の用例で「心深く」が一続きになっています。

古文では、現代文より形容詞とされる語が多く、そのすべてを一続きに書いてよいかどうか判断に迷う場面が多いのですが、中学・高校生が用いるような古語辞典の多くで形容詞と見なされているかどうかも判断の根拠となると思います。

４．p97　２．古文・漢文の分かち書き

お経の書き方に関して、何か規則はありますか。

般若心経　観自在菩薩　行深般若波羅蜜多時　照見五蘊皆空

度一切苦厄　舎利子　色不異空　空不異色　色即是空　空即是色

【Ａ】

お経でも、基本的な分かち書きのルールに従って書くことになります。

般若心経の冒頭部は、

観自在菩薩　　観音菩薩のこと

行深般若波羅蜜多時　　深般若波羅蜜多を行ずる時

照見五蘊皆空　　五蘊（または、五陰）皆　空なりと照見して

度一切苦厄　　一切の苦厄を度した

舎利子　　舎利弗（しゃりほつ）のこと

色不異空　空不異色　　色は空に異ならず、空は色に異ならず

色即是空　空即是色　　色はすなわちこれ空なり、空はすなわちこれ色なり

というような意味ですので、以下のように点訳の一例を示してみます。

五蘊（または、五陰）は、お経のルビが異なる場合もあります。ゴウンまたはゴオンとなります。

カンジザイ■ボサツ■■ギョー■ジン■ハンニャ■ハラミッタ■ジ■■

ショーケン■数５＝オン■カイクー■■ド■イッサイ■クヤク■■

シャリシ■■シキ■フイ■クー■■クー■フイ■シキ■■

シキ■ソク■ゼ■クー■■クー■ソク■ゼ■シキ■■

５．p97　２．古文・漢文の分かち書き

般若心経の経文の表記はどうなりますか？

観自在菩薩　行深般若波羅蜜多時　照見五蘊皆空　度一切苦厄　舎利子　色不異空　空不異色　色即是空　空即是色～

【Ａ】

般若心経の全文は以下の通りですが、原文によっては、漢字４文字ずつ空白を入れて書かれていたり、句点が付いていたり、行を替えるところも種々ありますので、そのような点は原文を尊重して書くことになります。また原文に従って、実際に唱

えるように長音を入れて点訳する方法もあると思います。読みが少し異なる場合もあるかもしれません。

以下に点訳の一例を示しますが、他の解釈もあるかもしれませんので、参考としてお使いください。

観自在菩薩　行深般若　波羅蜜多時　照見五蘊　皆空　度一切苦厄
舎利子　色不異空　空不異色　色即是空　空即是色　受想行識　亦復如是
舎利子　是諸法空相　不生不滅　不垢不浄　不増不減　　是故空中
無色無受想行識　無眼耳鼻舌身意　無色声香味触法　無眼界乃至無意識界
無無明亦無無明尽　乃至無老死　亦無老死尽　無苦集滅道
無智亦無得　以無所得故　　菩提薩埵　依般若波羅蜜多故　心無罣礙
無罣礙故　無有恐怖　遠離一切顛倒夢想　究竟涅槃　　三世諸仏
依般若波羅蜜多故　得阿耨多羅三藐三菩提　　故知般若波羅蜜多
是大神呪　是大明呪　是無上呪　是無等等呪　能除一切苦　真実不虚
故説般若波羅蜜多呪　即説呪曰　羯諦羯諦　波羅羯諦　波羅僧羯諦
菩提薩婆訶　般若心経

カンジザイ■ボサツ■■ギョー■ジン■ハンニャ■ハラミッタ■ジ■■
ショーケン■数５＝オン■カイクー■■ド■イッサイ■クヤク■■
シャリシ■■シキ■フイ■クー■■クー■フイ■シキ■■
シキ■ソク■ゼ■クー■■クー■ソク■ゼ■シキ■■
ジュ■ソー■ギョー■シキ■■ヤクブ■ニョゼ■■
シャリシ■■ゼ■ショホー■クーソー■■フショー■フメツ■■
フク■フジョー■■フゾー■フゲン■■ゼ■コ■クー■チュー■■
ム■シキ■ム■ジュ■ソー■ギョー■シキ■■
ム■ゲン■ニ■ビ■ゼツ■シン■イ■■
ム■シキ■ショー■コー■ミ■ソク■ホー■■
ム■ゲンカイ■ナイシ■ム■イシキカイ■■
ム■ムミョー■ヤク■ム■ムミョー■ジン■■
ナイシ■ム■ローシ■■ヤク■ム■ローシ■ジン■■
ム■ク■シュー■メツ■ドー■■ム■チ■ヤク■ム■トク■■
イ■ム■ショ■トク■コ■■ボダイ■サッタ■■
エ■ハンニャ■ハラミッタ■コ■■シン■ム■ケイゲ■■
ム■ケイゲ■コ■■ム■ウ■クフ■■
オンリ■イッサイ■テンドー■ムソー■■
クキョー■ネハン■■数３ゼ■ショブツ■■

エ■ハンニャ■ハラミッタ■コ■■
トク■アノク■タラ■数３ミャク■数３ボダイ■■
コ■チ■ハンニャ■ハラミッタ■■ゼ■ダイジンシュ■■
ゼ■ダイミョーシュ■■ゼ■ムジョーシュ■■
ゼ■ムトードーシュ■■ノー■ジョ■イッサイ■ク■■
シンジツ■フコ■■コ■セツ■ハンニャ■ハラミッタ■シュ■■
ソク■セツ■シュ■ワツ■■ギャテイ■ギャテイ■■
ハラ■ギャテイ■■ハラ■ソーギャテイ■■
ボジ■ソワカ■■ハンニャ■シンギョー